

APU

立命館アジア太平洋大学

Ritsumeikan Asia Pacific University

PROGRESS REPORT

立命館アジア太平洋大学 プログレス・レポート
[2002年・春号]
特集：APUのキャリア開発プログラム



Spring 2002

Vol. 17

巻頭言

駐日インド特命全権大使 アフタブ セット



2002年の初頭にあたり、立命館アジア太平洋大学 (APU) の教員と学生の皆様にご挨拶申し上げます。立命館の大学関係者の皆様方には、APUの前途の有望さと斬新なアプローチが、開学2周年を迎える前に国際学術界において認められるようになりましたことに心からお慶び申し上げます。

APUの学生の約半分は世界の64の国・地域から入学しており、その真にマルチカルチュラルで国際的な学術環境には大きな期待が寄せられています。この豊かで多様な構成のおかげで、学生の視野は大きく広がり、今日の複雑な世界情勢の諸問題を解決するのに必要な柔軟性、忍耐力、人間性が身に付くことでしょう。

日本で学ぶことにより、留学生はアジアの伝統や価値観を吸収することができます。たとえば、神道、ヒンズー教、仏教では、人間は自然の一部であり、従って人間は自然と調和して生きていかなければならないということを説いています。この単純な原理が正しく理解され、誠実に実行されれば、環境の悪化を抑制し、環境保護に関する多くの問題に着手するのに大いに役立つでしょう。同様に、Universal Spirit (ヒンズー教：宇宙に偏在する永遠の霊的原理) が生きとし生ける植物、動物そして無生物に浸透することで、人為による宗教的・文化的な分裂が橋渡しされ、より豊かな人間性が育まれることでしょう。

私は、APUの国際的なカリキュラムが、ユニバーサルな見解と非常に個性的なアプローチを持ち、グローバルに考え、ローカルに活動することのできるバランスのとれた人材を生み出してくれることを切に望みます。そのような人材は21世紀にはますます必要とされるはずで、この目的のために、APUの優秀な教員および経営陣は、伝統的な教授法と、アカデミックキャンプ、特別講義、インターンシップ、交換プログラムや定期的な評価とを融合させることでしょう。今後、APUが第一級の人材を世界中から集め、世界のCentre of Excellenceとなることを願っています。

最後に、インドからの31名の学生がこのようすばらしい大学で学ぶ機会を与えられたこと、そして彼らが勉強だけでなく、さまざまな活動においても立派に務めていることをうれしく思っています。彼らがこの機会を最大限に活かし、同時に人々のインドへの理解を促進してくれることを望みます。そして、多くのインド人学生を入学させ、このようなあいさつを申し上げる機会を与えてくださった大学に、深い感謝の意を表したいと思います。再び立命館アジア太平洋大学を訪れ、教員や学生のみなさんにお会いすることを楽しみにしています。

日本学術振興会理事長・前文部事務次官

佐藤 禎一



「知識社会の旗振り役をめざして」

立命館アジア太平洋大学は、その構想の段階から多くの人々の注目を浴びてきましたが、開学以来のめざましい活動ぶりは、改めて多くの賞賛を得るところとなりました。まずは、大学当局として学生諸君のご努力に敬意を表します。

研究活動は、その性質上国境を越えたものとされ、つとにグローバルな活動が展開されてきました。それに対し、教育活動は、伝統的に国民の教育という視点からの取り組みが重視され、1999年のG8ケルン・サミットで教育問題が突如として主要議題に取り上げられたことは、多くの人を驚かせました。

その背景は何だったのでしょうか。1980年代以降、先進諸国は競って教育改革に取り組みました。我が国の臨時教育審議会も1984年から1987年にわたった活動でした。各国とも進学率の上昇に伴い、多様な教育ニーズに対応する体制を要することとなったことが、主たる必要性でしたが、その一方で、それまでに完成された公教育制度が工業化社会に最も適したものであるとして設計され、脱工業化社会にふさわしいシステムが求められるに至ったという要素があったことも看過できません。

以来約20年にわたり、各国それぞれに努力を重ねてきましたが、「知識社会」に向かうという共通認識に達した今日、それぞれの知恵と経験とを結集した新しい取り組みを要するに至ったことを告げざるをえなくなったと言えるかと思えます。

このことを別の面から見ると、もはや教育活動が一国内に閉じこもってはおられず、世界的な土俵の中で、「協調」と「競争」を追求するという時代に踏み込んだということを意味しているでしょう。

世界的な基準で、良質な教育を競うということは、決して易しいことではありません。快調なスタートをきった立命館アジア太平洋大学が、来るべき知識社会の旗手として、さらなる大きな発展をとげられることを心より期待いたしております。

ごあいさつ

立命館アジア太平洋大学長
坂本 和 一

新年にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

立命館アジア太平洋大学（APU）は開学から3年目を迎えますが、皆様方の多大なるご支援のお陰で順調に前進いたしております。この間にAPUは、4回の入学式を執り行い、国内外の各地から優秀な入学者を迎えることができました。一昨年4月の開学に迎えた学生は、25の国・地域からの243名の国際学生を含む711名でしたが、現在では、世界64カ国・地域から904名の国際学生が在籍し、998名の国内学生と互いに切磋琢磨しながら勉学に励んでおります。

今、日本の大学には「国際的通用力と信頼性の高い大学」づくりと「学生がよく勉強する大学」づくりが求められております。もとより、前者の最大の基礎は后者であり、後者なくして前者はで





きません。幸い私どものAPUでは、世界各国・地域から集まった意欲と志の高い学生たちが醸し出す多文化で刺激的なキャンパス環境のもとで、日本の学生たちも大いに勉学意欲を高め、17の国・地域出身の教員スタッフの指導のもとに、日本の他の大学には見られない密度の高い勉学に励んでおります。このような営みを通じて、APUが日本における「国際的通用力と信頼性の高い大学」づくりに貢献できますよう努めてまいります。

このようなAPUの状況を中間報告させていただきますために、昨年11月にアドバイザリー・コミティの皆様からの多大なご協力をいただいて「企業各位と大学・学生との懇談会」を開催いたしました。ご多忙の中、懇談会には、東京、大阪、福岡の3会場で、合計148社の人事ご担当責任者の方々にご出席賜り、大きな成功をおさめることができました。これは、学生はもとより、私ども大学関係者にとりましても、感動に満ちた経験であり、APUのこれからの発展のために多くのことを学ばせていただきました。あらためて、厚く御礼申し上げる次第でございます。

世界の多様な文化が日常的に交流するAPUのキャンパスから、新しい文化やたくさんの創造的な人材が生まれますよう、私ども大学関係者は、一層の努力を重ねてまいります所存でございます。

これまでのご支援に心より御礼申し上げますとともに、今後ともご教示、ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



[特集] APUのキャリア開発プログラム

Report
01

立命館アジア太平洋大学 企業各位と大学・学生との懇談会

CORPORATE CONFERENCE

立命館アジア太平洋大学の学生とアドバイザー・コミッティを中心とする企業の皆様との懇談会が、11月28日の東京会場を皮切りに、29日の関西（大阪）会場、30日の九州（福岡）会場と3日間連続で開催されました。

立命館アジア太平洋大学では、現在1902名の学生たちがマルチカルチュラルなキャンパス環境のもとでグローバルな視野を育みながら、意欲的に学んでいます。

今回の懇談会は、ご支援いただいている各企業の皆様に、学生たちの学びと成長の姿をご報告するとともに、本学のめざす学生像・達成目標を理解していただき、厳しい視点からのご指摘やご意見を賜ることを目的に企画されました。

東京会場では62社・71名、関西会場では41社・48名、九州会場では45社・50名と、日本を代表する企業の人事担当部局から数多くのご出席をいただきました。また、東京会場では平松守彦大分県知事、和田龍幸 経済団体連合会事務総長、関西会場では柴田稔 関西経済連合会副会長、そして九州会場では大野茂 九州・山口経済連合会会長、岡野徹 旭化成株式会社専務

取締役の皆様から温かい励ましのお言葉も頂戴いたしました。

小グループに別れての懇談会では、APU教員の進行のもとに学生が自分たちの取り組みやこれまでの活動についてプレゼンテーションを行い、企業の方々にはコメントやアドバイスをいただきました。また、日本企業の特徴などについてもご説明いただき、特に国際学生にとってはたいへん貴重な機会となりました。



東京会場

11月28日（水） 経団連会館

プログラム

■ 第1部

主催者あいさつ APU学長 坂本和一
来賓あいさつ 大分県知事 平松守彦様
大学からの説明 APU副学長 慈道裕治「APUがめざす学生像と到達目標」
学生からの発表 学生代表 CHOWDHURY, Shradha (APS2回生、インド)「日本とAPU、そして私の祖国」

■ 第2部

来賓あいさつ 社団法人経済団体連合会事務総長 和田龍幸様
懇談会 (8グループ)
全体交流会
お礼のこたば 学生代表 大山 高 (APM2回生、日本)「私たちの志、アジアへ！世界へ！」
謝辞 学校法人立命館理事長 川本八郎



Special Report : Career Development

参加企業・団体一覧

(あいうえお順・62社・団体 敬称略)

- | | | | |
|------------------|----------------------------|-------------------|-------------------------------|
| 旭化成 株式会社 | 人事部採用グループ グループ長 佐藤幹洋 | 東京電力 株式会社 | 労務人事部人材開発グループ 副長 川村忠 |
| アサヒビール 株式会社 | 人事戦略部長 栗津晶 | 株式会社 東芝 | 人事勤労部採用センター センター長 金井淳 |
| アメリカンファミリー生命保険会社 | 人事部採用グループ副部長 川俣奏 | 東邦ガス 株式会社 | 人事部人事グループマネージャー 大路弘 |
| 石川島播磨重工業 株式会社 | 人事部人材開発・採用グループ課長 宮原薫 | 東レ 株式会社 | 人事部人事採用課長 小西明子 |
| 伊藤忠商事 株式会社 | 人事部採用・研修室 金山義憲 | 凸版印刷 株式会社 | ヒューマン事業推進本部人材採用チーム 部長 岡見宏道 |
| 株式会社 イナックス | 経営管理統括部人事部人事労務グループ 課長 遠西謙司 | トヨタ自動車 株式会社 | 東京総務部人事室長 中山直人 |
| ウシオ電機 株式会社 | 人事部長 吉井規友 | 日鉱金属 株式会社 | 役員待遇本部コーポレート担当 加賀美和夫 |
| 王子製紙 株式会社 | 人事部長 鬼頭俊郎 | 日産自動車 株式会社 | 人事部人事採用グループ主事 蛭名淳 |
| キッコーマン 株式会社 | 理事 人事部長代理 中村隆晴 | ニッセイ同和損害保険 株式会社 | 人事部副部長 金尾文隆 |
| キャノン 株式会社 | 人事本部人事部副部長 神崎宏 | 日石三菱 株式会社 | 人事部人事グループ主事 埴弘司 |
| 協和醗酵工業 株式会社 | 総務人事センター 佐々野健一 | 日本アイ・ピー・エム 株式会社 | 理事 人事・組織担当 齊藤紀夫 |
| 株式会社 熊谷組 | 管理本部人事部人事第一課課長 村田安広 | 日本生命保険 相互会社 | 人材開発室課長補佐 宮崎善成 |
| コスモ石油 株式会社 | 秘書室長 松下英夫 | 日本通運 株式会社 | 総務・労働部人事能力開発専任 御友孝宏 |
| 株式会社 資生堂 | 人事本部人事部人材育成グループ 課長 大倉通宏 | 日本テレコム 株式会社 | 人事部人材開発室 主幹 中憲治 |
| 株式会社 ジェイティービー | 取締役 総務部長 伊藤正人 | 日本電気 株式会社 | 事業支援部採用グループ主任 堀格 |
| 昭和電工 株式会社 | 人事業務グループ長 宇多田元 | 日本ビューレット・パッカー株式会社 | 執行役員管理統括人事部門長 太田和裕 |
| 新日本製鐵 株式会社 | 人事・労務部人材開発グループマネージャー 小杉健 | | 渉外部長 坪内和彦 |
| 住友大阪セメント 株式会社 | 人事部長 関根福一 | 日本貿易振興会 | エクスターナルリレーション部 部長 瓜谷輝之 |
| 住友商事 株式会社 | 人事部長 三浦一朗 | 株式会社 博報堂 | 総務部次長 (人事担当部長) 平井澄仁 |
| 住友生命保険 相互会社 | 人事部能力開発課長 米林裕 | 株式会社 日立製作所 | 人事・人材開発局局長代理 三好泰宏 |
| 全日本空輸 株式会社 | 人事部担当部長 小林克巳 | | 人事企画部部長 岡謙介 |
| ソニー 株式会社 | 人事センター採用担当部長 深野誠 | 富士ゼロックス 株式会社 | 採用企画グループ グループ長 部長代理 山本夏樹 |
| 大成建設 株式会社 | 管理本部人事部人事室 課長 勝田耕次 | 富士通 株式会社 | 人材開発センター長 小川徹 |
| | 管理本部人事部人事室 主任 田中実 | 松下電器産業 株式会社 | 人材採用センター長 藤澤桂一 |
| 大同生命保険 相互会社 | 東京人事課長 成田綾夫 | 三井建設 株式会社 | 人事グループ東京採用チーム 室長 高橋広明 |
| 大日本印刷 株式会社 | 人材開発部長 辻本房之 | 株式会社 三井住友銀行 | 人事部人材開発室長 小杉一郎 |
| 太平洋セメント株式会社 | 人事部人事グループ 板野康隆 | 三菱化学 株式会社 | 常務執行役員 人事部長 柳村幸一 |
| | 人事部人事グループ 森崎義仁 | 三菱商事 株式会社 | 人事部採用グループリーダー 藤原弘 |
| 中部電力 株式会社 | 東京支社総務課長 青木秀樹 | 三菱電機 株式会社 | 地域統括部国際人材開発チームリーダー 松田豊弘 |
| 株式会社 電通 | 人事局局次長 兼 リソースマネジメント部長 吉田憲助 | 三菱マテリアル 株式会社 | 人事部採用グループ採用課長 樋口博之 |
| | 人事局リソースマネジメント部 部長 石橋智 | 株式会社 山下設計 | 人事グループ人事企画チームリーダー 木村光 |
| 東急建設 株式会社 | 人事部長 根津広 | 山之内製薬 株式会社 | 総務本部統括部長 池内正敏 |
| 東京海上火災保険 株式会社 | 国際部部長 玉井孝明 | ユニ・チャーム 株式会社 | 総務本部人事部主管 岩佐嘉朗 |
| | 人事企画部部長 城山一成 | | 取締役 (人事担当) 佐羽俊男 |
| 東京ガス 株式会社 | 人事企画部主管 杉浦武彦 | | 人材開発部国際人事・教育グループマネージャー 佐々木美弥子 |
| | 人事部人材開発グループマネージャー 青沼光一 | | |

ドブロヴォルスカヤ アンナ (APM1回生、ロシア)

VOICE



私は、APUが提供する国際的学習環境とそこで得られるもの、そして英語・日本語による教育の特徴をアピールしました。それに対して、日本では普通だとみなされている教育システムとは異なった学習環境のもとで勉強することは、グローバルに対応できる人材の育成には不可欠だというコメントをいただきました。そして、「夢を持ち、それを実現するため

に全力を尽くすようにがんばるのが大事」「自分の研究分野をしっかりと決めることが大切」といったご意見を伺うことができました。日本企業が私のような国際学生に求めているのは、自分の文化やアイデンティティをしっかりと持つ人材だとおっしゃっておられたことは、とても印象に残っています。

この懇談会は、APUについてもっと多

くの企業の方々に知っていただくきっかけとなったと思います。今後もこのような機会があることを望みます。学生側から見ると、日本の労働市場、経営の仕方などさまざまなことについて企業の方とお話することができ、たいへん勉強になりました。この懇談会のおかげで、学生たちの将来の夢や目標も、はっきりしてくることでしよう。

関西会場 11月29日(木) ホテル阪急インターナショナル

プログラム

第1部

主催者あいさつ APU学長 坂本和一
 来賓あいさつ 関西経済連合会副会長・東洋紡株式会社取締役会長 柴田 稔様
 大学からの説明 APU副学長 慈道裕治「APUがめざす学生像と到達目標」
 学生からの発表 学生代表 SCUMPIERU, Mihai (APS2回生、ルーマニア)「日本とAPU、そして私の祖国」



第2部

懇談会 (8グループ)
 全体交流会
 お礼のこトバ 学生代表 竹本慎也 (APM2回生、日本)「私たちの志、アジアへ!世界へ!」
 謝辞 学校法人立命館理事長 川本八郎



参加企業一覧 (あいうえお順・41社 敬称略)

大阪ガス 株式会社	人事部 人材開発チーム 課長 江本雅朗	住友生命保険 相互会社	人事部(本社) 人事課長 金子純
オムロン 株式会社	人事本部長 井尻正博	住友電気工業 株式会社	人事部人材開発室長 関陽一
関西電力 株式会社	人事部長 保田邦生	積水ハウス 株式会社	人事部長 下津健治
京セラ 株式会社	人事部人材開発課責任者 多田順治	みずほフィナンシャルグループ株式会社第一課 課長	大阪事務所 所長代理 藤原勝幸
株式会社 京都銀行	取締役人事部長 大井成夫	ダイキン工業 株式会社	人事部長 田辺貞夫
京都中央信用金庫	常務理事 稲岡典彦	大日本スクリーン製造 株式会社	人事部人事課係長 森下修
近畿日本鉄道 株式会社	勤労局 人事部長 吉田昌功	大同生命保険相互会社	取締役人事部長 大山恭彦
株式会社 きんでん	理事 業務サポート本部長 西英敏	東洋紡績 株式会社	人事労政部人材グループ マネージャー 皆川敏
	業務サポート本部長 西英敏	トヨタ自動車 株式会社	グローバル人事部人材開発室担当員 杉浦右一
株式会社 クボタ	人事労政部長 大城徳治	ニチコン 株式会社	総務部人事担当次長 土谷逸郎
株式会社 栗本鐵工所	総務部採用担当部長 藤澤博	日清食品 株式会社	執行役員人事部長 牧園俊作
京阪電気鉄道 株式会社	人事部長 西川康夫	日本写真印刷 株式会社	総務本部長 上善正憲
株式会社 鴻池組	管理本部長 寺本俊三	阪急電鉄 株式会社	統括本部長 統括室長 齋恒三
南海電気鉄道 株式会社	人事部 課長 堀川博文	藤沢薬品工業 株式会社	人事課長 藤間美樹
三洋電機 株式会社	要員・能力開発チーム マネージャー 岡本浩之	株式会社 平和堂	取締役教育人事部長 古川幸一
株式会社 三和銀行	人事部長代理 朝長誠一郎	株式会社 堀場製作所	人事教育部主任 西川徹
株式会社 ジェイティービー	西日本営業本部副部長 井本博幸	松下電器産業 株式会社	人事グループ採用チーム採用担当部長 国井義郎
株式会社 滋賀銀行	人事部長 奥博		人事部 採用課長 青木孝一
株式会社 島津製作所	人事部副部長 戸成洋二	株式会社 三井住友銀行	人事部長 藤井順輔
シャープ 株式会社	人事本部長採用担当部長 小林昭司	村田機械 株式会社	取締役総務部長 秋山康夫
	A121OPT 陳偉	株式会社 村田製作所	人事部長 前川利弘
	電子部品営業本部主事 高島香代	ローム 株式会社	人事部 副部長 前村義明
	知的財産権本部主事 渡邊義久		人事部 係長 吉見晋一
	経営企画室主任 岡田敏昭		
住友金属工業 株式会社	人事労政部長 小塚修一郎		

スクンピエル ミハイ (APS2回生、ルーマニア)

VOICE



グループ懇談会では、さまざまなことを話しあいましたが、私は、企業の発展のために私たち若い世代はどのような貢献ができるかという質問をしました。企業が私たちのために何をしてくれるか、ではなく、私たちが企業のために何ができるかを聞くことが重要と思ったからです。それについて、担当者の方々には結果よりもプロセスを大事にするようにと助言してくださいました。ある一つの仕事を担当したら、それ

に専心し、最終結果を出すという能力が評価されるのだとおっしゃいました。私はこれまで結果ばかり気にしてプロセスには注意を払ってこなかったもので、よい勉強になりました。また、大学で学ぶことが必ずしも社会生活に直結しないということも学びました。そして社会では自分の利益ばかりを追求するのではなく、組織の中で他の人の足を引っ張らないでうまく周りと協力して一つの仕事を最後までこなすということ

の重要性についても勉強しました。

この懇談会は、日本のビジネス界の実際を見ることができたいへんすばらしい機会でした。実際に現場にいらっしゃる方々にお会いしなければ、現実起こっている問題や企業が抱える懸念を理解することはできません。日本企業および日本経済に対する私の理解も深まったと思います。このような機会を与えられたことに感謝しています。

九州会場

11月30日(金) 西鉄グランドホテル

プログラム

■ 第1部

主催者あいさつ APU学長 坂本和一
 来賓ごあいさつ 社団法人九州・山口経済連合会会長 九州電力株式会社代表取締役会長 大野 茂様
 大学からの説明 APU副学長 慈道裕治「APUがめざす学生像と到達目標」
 学生からの発表 学生代表 WEI Wei (APM2回生、中国)「日本とAPU、そして私の祖国」

■ 第2部

懇談会 (8グループ)
 全体交流会
 ご講演 旭化成株式会社専務取締役 岡野 徹様
 お礼のこトば 学生代表 横山芽衣子 (APS2回生、日本)「私たちの志、アジアへ!世界へ!」
 謝辞 学校法人立命館総長 長田豊臣



参加企業・団体一覧

(あいうえお順・45社・団体 敬称略)

旭化成 株式会社	専務取締役延岡支社長 岡野徹	株式会社 さとうベネック	人事総室長 池松眞善
株式会社 アステム	人事部 部長 長尾徹	島崎観光開発 株式会社	総支配人 江藤浩太郎
麻生商事 株式会社	管理部 部長代理 松本誠一		マネージャー 山田尚司
学校法人 麻生塾	副校長 本田恵子	株式会社 ゼンリン	総務人事部マネージャー 中山章
麻生セメント 株式会社	管理部 原田敬一	大成印刷 株式会社	総務部次長(人事担当) 大窪敬男
大分瓦斯 株式会社	総務部長 安藤隆廣	中国電力 株式会社	人材活性化室マネージャー 小野雅樹
株式会社 大分銀行	福岡支店 支店長 伊東勇次	東陶機器 株式会社	人事部 人事・厚生グループ グループリーダー 畠田宏治
大分交通 株式会社	常務取締役管理部長 杉原正晴	株式会社 トキハ	人事部ゼネラルマネージャー 理事 藤川五十五
株式会社 大島造船所	本部総務部 部長 福岡敬之	株式会社 トクヤマ	人事グループ主任 藤本栄樹
大関 株式会社	福岡支店 支店長 石田理士	トヨタ自動車 株式会社	グローバル人事部人材開発室採用教育グループ担当員 安藤泰經
大原簿記法律専門学校福岡校	校長 水野晴夫	株式会社 西日本銀行	人事部副調査役 桑田郁也
	課長 米田豪志	株式会社 西日本新聞社	人事部次長 佐藤晃
	課長補佐 磯崎秀一	西日本鉄道 株式会社	人事部長 井上寛
九州経済産業局	国際部 国際課 春口浩子	日本航空 株式会社	九州地区担当 福岡支店 部長 福井憲治
社団法人 九州・山口経済連合会	常務理事 黒田省司	日本政策投資銀行	大分事務所 所長 名取隆
九州大日精化工業 株式会社	総務課課長 横田修	ハウステンボス 株式会社	ゼネラルマネージャー 金谷明克
九州電力 株式会社	人事労務部長 牛島健五	平田機工 株式会社	総務部人事課長 首藤道信
九州松下電器 株式会社	ヒューマンセンター 採用グループリーダー 鬼塚博之	株式会社 福岡銀行	取締役人事部 津留正純
	吉田絵里	福岡県	国際経済観光課 国際企業係長 岩崎高行
九州旅客鉄道 株式会社	総務部人事課長 廣川昌哉		国際経済観光課 主任主事 須賀陽
株式会社 九電工	理事人事労務部長 吉田省吾	株式会社 福岡シティ銀行	人事部長 藤田知行
株式会社 熊谷組	九州支店 管理部 総務課 総務課長 釘宮智幸	株式会社 福岡ドーム	総務部人事課長 徳竹公司郎
小倉興産 株式会社	総務部長 石田清行	フンドーダイ 株式会社	総務部長 西口暉洋
国際協力事業団	九州国際センター 次長 野津善男	株式会社 安川電機	管理本部人事グループ人事グループ長 宇佐美昇
西部瓦斯 株式会社	人事労政部 課長格 毛利誠	株式会社 山口銀行	常務取締役 桑原豪士

横山芽衣子 (APS2回生、日本)



1期生だからできる挑戦とそこから生まれる困難、衝突、協力、達成、喜び。ここでの喜びは、国境や文化の違いを超えてみなが共通して感じあえる普遍的な喜びです。その瞬間の衝動、それこそが相互理解や国際交流であることをAPUの多文化環境から学びました。そんなAPUの魅力を伝えたいと思いこの懇談会に参加しました。

「語学運用能力と高い専門性は、これか

ら社会をリードする人材にとって最低限必要」、「自国のアイデンティティの確立なしで真の国際交流はできない。自文化を見詰め直すことも忘れずに」といったお言葉を頂きました。また、「架け橋はいらない、企業では即戦力が必要。どのような環境にいようと自分は何ができるかを見出すことが重要」「APU学生は目の輝きが違う。目標を持つ人間にある独特の張りを感じた」実際に企業の方々からこのような生の声を

頂き、一つ一つの言葉に重みとその責任を感じました。

また、九州会場でスピーチをさせていただきましたが、APU学生の志、そして自分自身の志を明確にし、胸を張って主張することができました。私たちがどう歩んでいかかは、これからの私たちの努力次第です。この懇談会で芽生えた思いを忘れずに、今後のAPUでの学生生活をさらに実りあるものにしていきたいと強く思いました。

VOICE

Report
02

インターンシップ

INTERNSHIP

インターンシップは、学生が就職前に社会経験を積むための制度で、アメリカでは産学協同教育の一つと考えられています。企業や団体が学生がインターン（見習い）として一定期間、多くの場合は無償で働き、就労体験を行うもので、就職活動につながる重要な段階として重視する大学が増えています。APUでは、卒業までに全学生が経験することを目標としています。単位認定の対象となるもの、自分自身で探して申し込むもの、有償のもの、無償のもの等々、日本国内外を問わず、多様なメニューをとりそろえて、2001年夏に、東京・大阪・福岡といった大都市圏を含め、全国規模で約80名の学生を派遣しました。読売新聞東京本社など難関分野といわれるマスコミ、エコビジネスの世界で飛躍的發展を続けるNGPグループ、さらに九州経済産業局、大分県庁、別府市役所といった行政機関、アジアで広く事業を展開するアジアビジネスセンター、ヤンマーディーゼルといった企業まで、幅広い受入先を開拓してさまざまなメニューを提供することができました。海外では、国際的なNGO団体の熱帯農林技術開発協会の主催で、現地フィリピンでの植林の実態の研究やJICA事務所での実務研修など、国内では経験できないものもありました。今後もさらに多くの企業・団体に受け入れをお願いし、学生にさまざまな業種での経験をする機会を提供していきたいと考えています。

なお、APUでは夏と冬のセッション中にインターンシップを実施します。



インターンシップ・プログラムに参加したい学生は、キャリア・オフィスに相談します。

募集および応募は次のように行われます。

募集

キャリア・オフィス窓口、ホームページ、掲示板にて随時。企業・団体の業種やプログラム内容、期間、条件等を確認します。

応募

所定の応募書類を提出。
業種によっては志望理由書の提出や面接を課されることもあります。

また、終了後は体験報告票をキャリア・オフィスに提出します。このデータはプログラムをさらに充実させるための重要な資料となります。

インターンシップ受け入れ企業・団体 (2002年2・3月期予定)

エフエム大分	熊谷組	大分県福祉協議会	大分交通
エフエム福岡	熊谷組香港	大分県立歴史博物館	日本貿易振興会 (JETRO) 大分事務所
トキハ	自立型オキナワ経済発展機構	カオハガン島	熱帯農林技術開発協会
日本総合研究所	国際観光振興会	日本旅行	別府市役所
福岡ドーム	JETRO在外事務所	ホンダ太陽	
日本ユニセフ協会	NGPグループ	読売新聞社 ソウル支局	
ハイパーネットワーク社会研究所	PT.National Gobel	旭化成 延岡支社	
大分合同新聞社	TOSエンタープライズ	国際協力事業団 (JICA) 九州国際センター	
大原学園	おおいたインフォメーションハウス	大分県庁	

REPORT

インターンシップ体験報告



小森 勇佑 (APM2回生、日本)

ヤンマーディーゼル株式会社
(大阪市、2001年8月20日～8月31日)

■大学での授業が具体的に

今まで大学で教わってきた授業の内容は、黒板やコンピュータなどを利用しても、学生たちにとっては頭の中で想像することでしかありませんでした。しかし、インターンシップを通して社会を少しでも経験することにより、大学で教わったことはこういうことなのだと感じ、納得できました。今まで想像の世界でしかなかったことが、実際に社会にふれることで具体的にになりました。

■人と機械化

情報社会やITといわれても、漠然としていましたが、インターンシップを通じて人々がそういった流れを大きくとらえていることがわかりました。以前は、社長や部長といった人が情報を持ち、情報を持つことはステータスでもありました。しかし、ITの普及によりほとんどの人が情報を得られるようになり、もはや情報を持つことがステータスではなくなりました。今後も機械化や情報のオープン化は進んでいくでしょう。そこでいちばん大切なことは、人が考えることです。情報であれ、機械であれ、それらを動かす人間が考えて利用しなくてはならないということを学びました。

REPORT

インターンシップ体験報告



米田 梨江子 (APM2回生、日本)

別府市役所コンベンションビューロー
(財)別府コンベンションビューロー
(別府市、2001年8月27日～9月7日)

初日のオリエンテーションの後、ビーコンプラザへ行き、概要をお話していただくことから始まりました。第三セクターであるビーコンプラザの運営方法については、実際の研修の中で学んでいきました。最初は「社会人らしく」というプレッシャーがありましたが、しだいに打ち明け、いい意味での緊張感の中、研修にのぞめたと思います。

事前には、実務的な仕事をすることを想像していましたが、期間が短いことと経験・知識不足のため、思い通りにはいきませんでした。このことは、自分をもっと大学で学ぶべきことがあるということの再認識につながりました。しかし、文章を作成したり会議で意見を求められたりといった実践的なことも多少あり、自信につながりました。また、大学で学んだことを生かす場もあり、楽しさを感じました。実際にビーコンプラザの運営やインターンシップの研修内容について直接意見を言える場を何度となく作っていただいたことはありがたく、今回の研修が私のためだけでなく双方にとって収穫になったと確信しています。

今後はこの体験を生かし、大学での勉強に意欲的に取り組み、今度は民間の企業で研修に参加したいとも思いました。

講演・講座

LECTURES

キャリア・オフィスでは国際企業のトップをはじめとする各界リーダーの生の声を聞く機会として、トップ講演会を開催しています。その他に、さまざまな業界で活躍されている、または豊富な経験をお持ちの方々の講演を聞くことができる講座を開催しています。2001年度の実施概要は次の通りです。

トップ講演会

テーマ：「インターネットの将来と皆さんへの期待」
講 師：日本ビューレットパックード株式会社代表取締役社長 寺澤正雄氏
日 時：2001年10月10日（水）（英語による講演）



業界別連続講演会

■ マスコミ

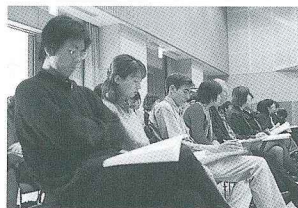
テーマ：「新聞社海外特派員の仕事」
講 師：読売新聞社国際部次長 河田卓司氏（前台北特派員）
日 時：2001年5月16日（水）14：00～16：00

■ 観光

テーマ：「ホテルマネジメントという仕事」
講 師：APUアジア太平洋学部教授 小方昌勝
日 時：2001年6月6日（水）14：00～16：00

■ 国際機関

テーマ：「国連開発計画（UNDP）の仕事」
講 師：国連開発計画東京事務所長 長谷川祐弘氏
日 時：2001年6月20日（水）14：00～16：00



エクステンション講座

キャリア・オフィスでは、難関進路や資格試験への対策として「エクステンション講座」を有償で開講しています。エクステンション講座は、キャンパス内で受講できるので通学による時間のロスや、交通費の負担がありません。また、受講料についても講師料や運営経費など必要最低限の費用のみ受講料で賄いますので、一般の専門学校と比較して安価に設定されています。

■ 開講中の講座

- ・ 初級システムアドミニストレータ
- ・ 基本情報処理技術者
- ・ MOUS (Microsoft Office User Specialist)
- ・ 日商簿記検定試験3級対策講座

キャリア講座

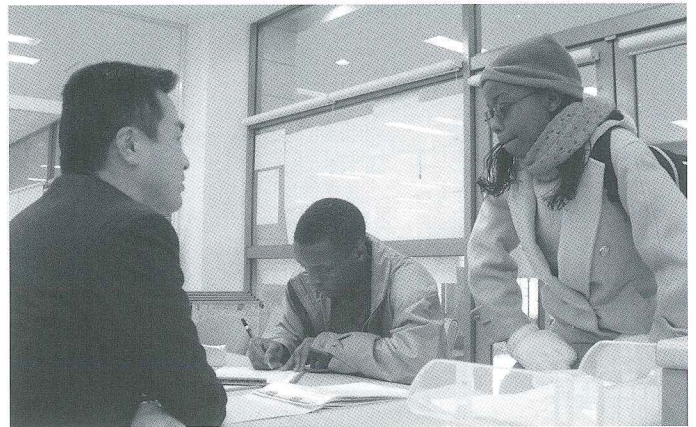
タイトル：「From Canada to Japan and the World」
講 師：在福岡カナダ領事館領事兼通商代表 Josiane SIMON 氏
日 時：2001年12月5日（水）14：30～16：00（英語による講演）

タイトル：「日本の中小企業と産業政策」
講 師：九州経済産業局産業部中小企業課長 山崎隆生氏
日 時：2002年1月16日（水）13：00～14：30（英語による講演）

Report
04

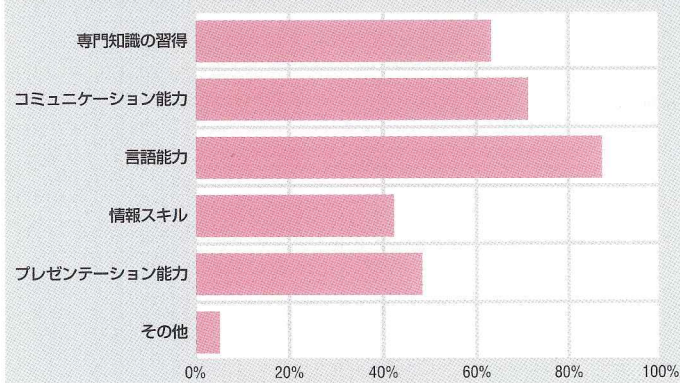
進路意識調査

入学した年から毎年、学生に進路意識調査アンケートを実施します。キャリア・オフィスでは、提出されたアンケートを学生一人ひとりのキャリア・チャートに記録して情報を蓄積し、変化を追跡することによって、進路・就職についてアドバイスする際の参考にするほか、学生全体の志向・動向の変化を分析し、効果的な対策を立てるのに役立てています。APUの国際学生のうち、就職希望者の半数以上が日本での就職を希望していることなどが、この調査でわかります。

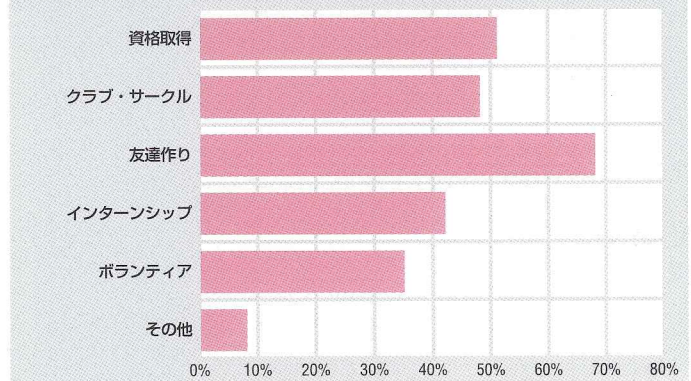


■ 1回生アンケート

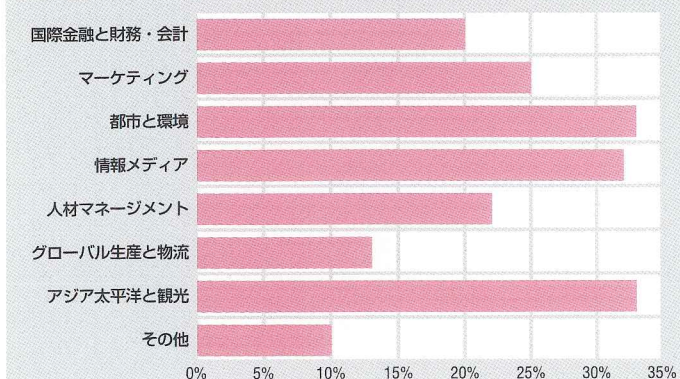
1 大学時代に学業を通じて身につけたい能力



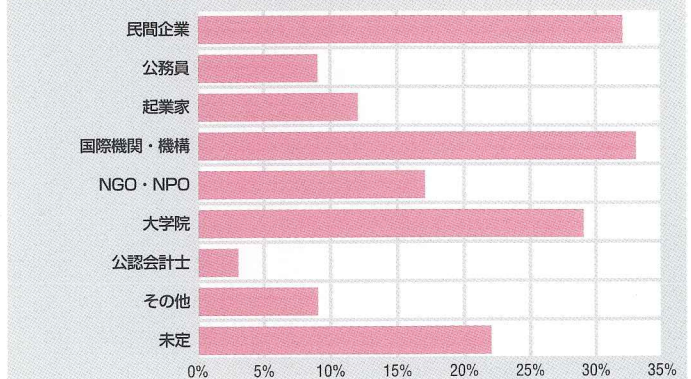
3 大学時代に学業以外で力をいれたいこと



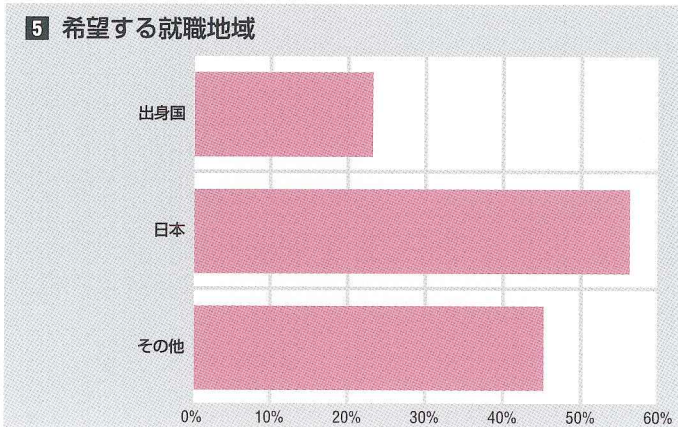
2 研究したいテーマ



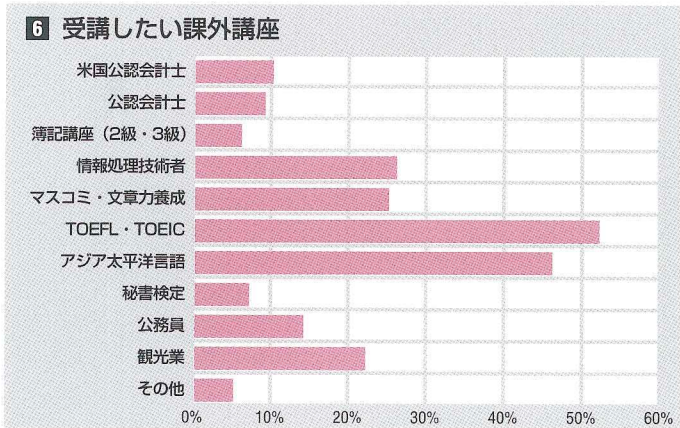
4 大学卒業後の自分の将来像



5 希望する就職地域

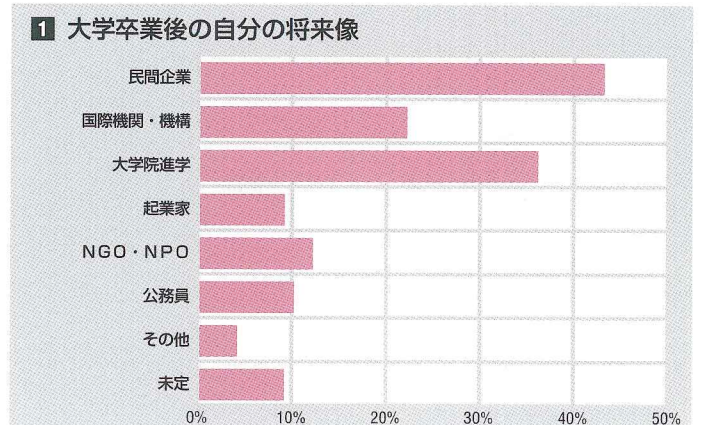


6 受講したい課外講座

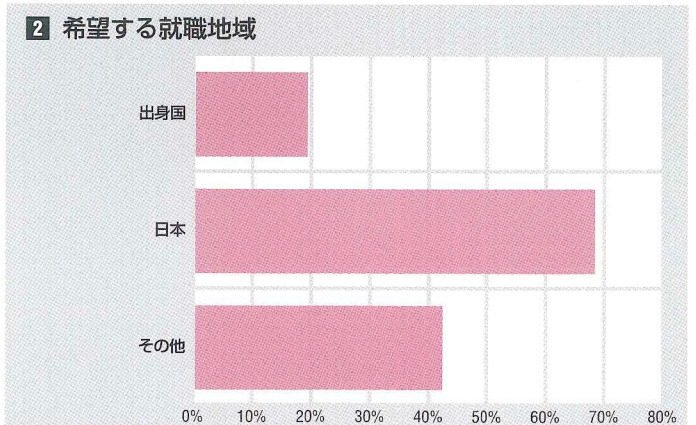


2回生アンケート

1 大学卒業後の自分の将来像



2 希望する就職地域



Report
05

国際貿易アシスタント



県内の大学・大学院で学ぶ留学生が、海外との取り引きを行う大分県内の中小企業等を支援するのが大分県が実施する「国際貿易支援アシスタント活用事業」です。アシスタントは、大学での専門知識を活かしながら、取引相手国の情報提供や語学支援等を行い、それにより県内企業の海外取引の促進と国際化の推進が図られます。現在、海外との取り引きがある約20の県内企業が参加しており、APUからはアジア諸国・地域出身を中心とする約90名がアシスタントとして登録しています。

アシスタントになるには、次の要件を満たす必要があります。

- ① 県内の大学・大学院で学ぶ留学生で、県内の企業において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を希望する者
- ② 日常会話に支障のない程度の日本語ができる者
- ③ 通常の業務に支障のない健康状態である者

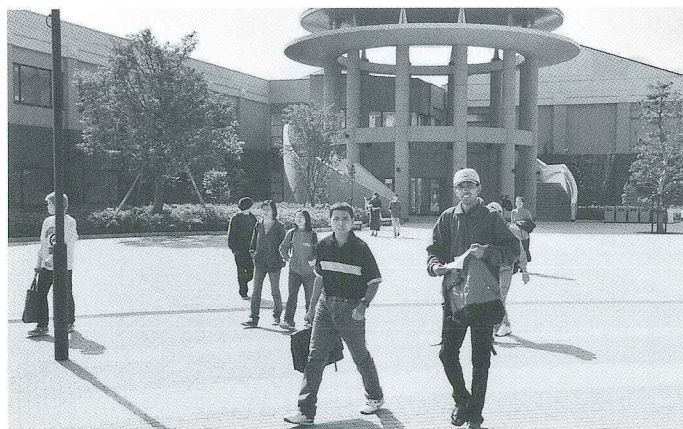
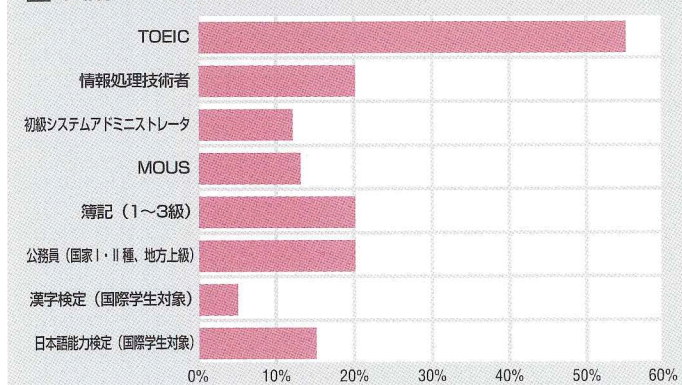
また、アシスタントの行う支援内容は次のようなものです。

- ① 取り引き相手国の貿易・経済情報等の提供、市場調査における支援
- ② 海外取引先とのコンタクトの支援
(電話、書類作成における語学支援等)
- ③ 海外での商談支援(現地案内、商談における語学支援等)
- ④ 海外貿易機関等との連絡・調整
- ⑤ その他①～④の支援を行うために必要な業務
(現地での企業実習等も含む)

アシスタントの貿易知識向上のために、年4回程度研修会が行われます。

アシスタントになる留学生は、語学力とともに実務経験や知識を持っているため、企業にとっては、大きな力になります。また、アシスタントを起用する際、アシスタントの報酬、交通費、海外渡航費など、経費の一部が県により補助されます。

3 受講したいエクステンション講座



Series : Career Development Seminar

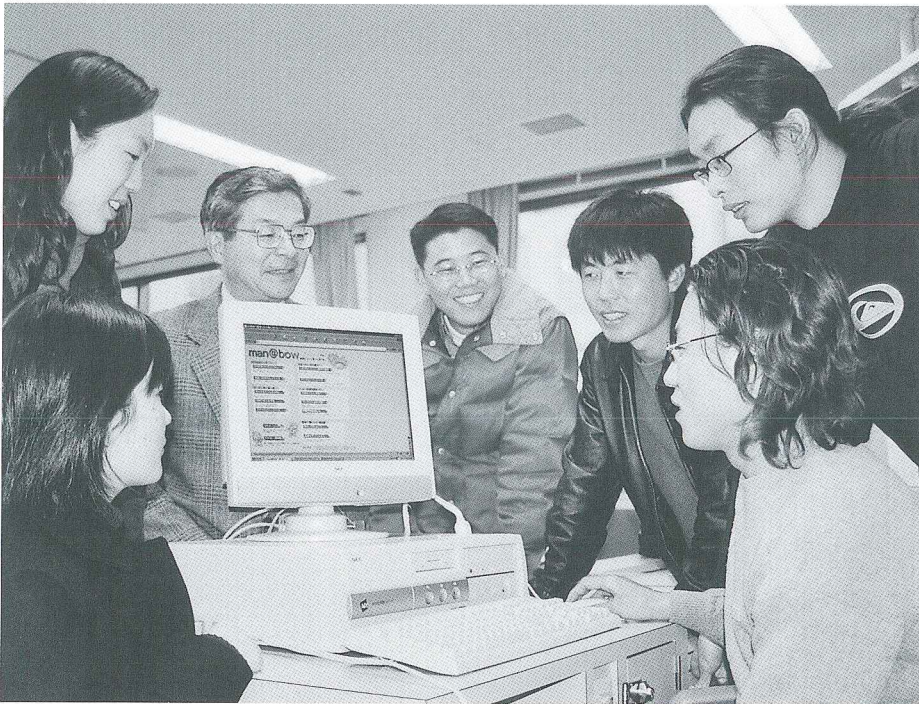
シリーズ「キャリア開発ゼミナール」

金融研究会

今回紹介するのは、アジア太平洋マネジメント学部の荒川宜三教授が主宰する「金融研究会」です。

金融に関する知識を身につけたいという学生が集まって発足した会で、国際学生が中心となって活動を行っています。

前回ご紹介したアジア太平洋学部の小方昌勝教授が主宰する「ツーリズムを考える会」と橋本秀一教授が主宰する「橋本マスコミ塾」に続いてご紹介します。



「金融機関で働いた経験があるから、株式や金融に関することをしたい」と金秀一さん（APM2回生 韓国）が荒川先生に相談したところ、先生が「こんなクラブを作ってはどうか」と提案したことから始まった会。どのような活動を行うべきかと迷った約半年間の準備期間を経て、2001年の秋から本格的に活動を始めました。

現在、韓国、中国、日本出身の学生8名が、3名と5名のチームに別れて日経STOCKリーグに参加しています。この会に参加している学生の動機や目的はさまざまです。

「株の基本的知識を得るために参加しました。日経新聞を毎日読んでいます。将来は金融または貿易関係の仕事に就きたいです。」

（朴 天浩さん APM2回生 中国）

「母国では経営を専攻し、金融機関で働いた経験もあります。APUに来て、いろいろなサークルのうち、経済や経営について勉強できるものを探していたところ、金君に聞いてこの会に参加しました。だれかに教えてもらうのではなく、自分で勉強するサークルです。」

（金 明三さん APM1回生 韓国）

「アジア太平洋マネジメント学部なので、企業の経営および経済について勉強

しています。株式は企業経営の重要な部分で、これを通して社会の趨勢を見ることが出来ます。日本の経済情勢を研究していきたいです。」

（韓 齊亨さん APM2回生 韓国）

「どの株を買って、それがどんな動きをしているのか、なぜその銘柄を買ったのかといったことをみんなで話し合っています。株式の用語も勉強しています。」

（金 恵珍さん APM2回生 韓国）

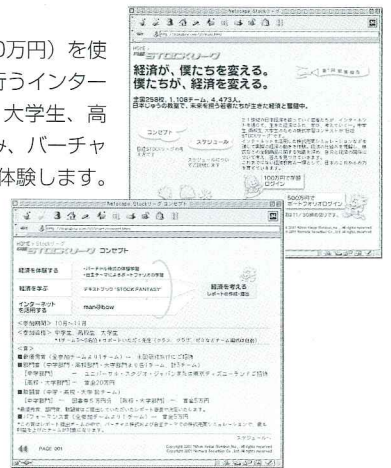
「韓国では数年前からどうしたらお金が増やせるかと考える風潮ができて、株式で成功した人たちが知られるようになりました。そこで私がしてみたらどうなるだろうと思うようになりました。実際にお金を投資することはできないので、損得はないけれどもいい勉強になると思っています。大学を卒業したら、投資アナリストになりたいです。」

（太 延元さん APM2回生 韓国）

リーダーの金 秀一さんは、母国で銀行に勤めた経験があります。しかし、当時は金融が何であるかさえ説明できなかった自分が情けなくて勉強を始めようと思いついたのだと言います。「自分が飲むジュースなどが株式に関係あるなどと思いませんでした。銀行にいたのにそれさえも気付かなかったのです。株式など関係ないと思っている人が多いようですが、実は身近なものなのです。韓国で少し株に投資しており、このような勉

■日経STOCKリーグとは・・・

仮定の資金（100万円または500万円）を使って、2カ月間という期間限定で行うインターネット上の株式学習コンテスト。大学生、高校生などが5人までのチームを組み、バーチャル株式売買を通じて経済の動きを体験します。審査は「バーチャル株式の体験学習」または「自主テーマによるポートフォリオ学習」というレポートをもとに行われます。この学習を通して、経済や金融に関する知識を身につけることができます。



強を始めてやっと少しずつわかるようになりました。他の人にもこんな繋がりがあるということを伝えたいし、一緒に勉強していきたいと思ってこの会を作りました。」

日経STOCKリーグに参加すると日経新聞の講読が無料でできるため、それを教材にしながら、またニュースを見ながら各自が勉強し、適時チームで集まっては意見や情報の交換を行います。また、わからないことがあれば先生に相談することもできます。この取材を行ったときはどの株式を買うかを決定する直前でしたが、買った後はなぜその銘柄にしたのかというレポートを作成します。メンバーの考えはそれぞれ違うため、話し合いが必要です。2ヶ月の間、チームで購入した株の動きを注視しながら、時事問題に左右されるといった経済の仕組みを体験学習していくことになります。株を始めてから社会情勢に敏感になったとメンバーの一人は言います。

「日本では小学校から、お金に関する知識をほとんど教えていません。お金儲けは何か蔑むことだとう考えが一般にあるようですが、これからは改めていくべきでしょう」と荒川先生は話します。

アメリカでは、お金に関する知識を小さいころから身につけるための活動が盛んに行われています。たとえば、資本金

を使ってどんな会社を作り、どんな利益を追求するかをウェブ上で競い合う「ジュニア アーチブメント」がありますが、立命館慶祥高校とリトアニアの高校がこのプログラムで競い合い、たいへん仲良くなって互いに修学旅行に行ったり、ホームステイしたりという交流が始まりました。これをきっかけに現在リトアニアから7名の学生がAPUに来ています。

金融業界において長い経験を持つ先生は、正課で『金融論』という講義を担当しています。「講義との違いは、若者が親しみやすい教材やバーチャルという仕組みで若干遊び感覚を取り入れていることでしょう。それがさらに発展して、他のチームと競い合い、ヒューマンネットワークが広がっていくといいですね。」「常識としての金融や株式の知識、そこから広がり求めて企業調査のあり方や、経済の予測の仕方といったものに進んでくれたらいいなと思っています。特にAPMで学ぶ学生ならばこういった知識は必須条件ですし、社会人になればすぐにそれが役に立つことでしょう。」

バーチャルであっても失敗談、成功談があると、それらを積み重ねて成長していくことができます。学生たちの中には企業を興すという夢を持つ学生もいますが、どんな企業にしても金融の知識は常識として必要です。株式、投資、債券とはどういうものか、産業全体の内容、経

済の行方といったところに自分たちの興味を見つけてくれば、というのが先生の願いです。

会としての当面の目標は、リーグで優勝することですが、それだけではなく、日経STOCKリーグを通じてここまで金融のことを知ることができたという満足感が得られるところまで到達することです。今回のメンバーにとっては日経STOCKリーグに参加するのは初めての試みですが、これを基盤に来年、再来年も挑戦していきたいとメンバーの夢はひろがります。



荒川 宜三

アジア太平洋マネジメント学部教授

(株)大和銀行審査部、ニューヨーク現地法人社長、調査部長などを経て、2001年まで(株)大和銀総合研究所顧問。経済企画庁景気ウォッチャー制度委員会学識経験者委員などを歴任。

Topics on APU

2001年度10月入学式が執り行われました

10月1日、2001年度10月立命館アジア太平洋大学入学式がミレニアムホールにて執り行われました。APUでは、年2回の入学式を行っており、今回の入学者は、50カ国・地域からの国際学生253名と国内学生14名の合計267名です。これにより、APUの在學生は、国際学生が64カ国・地域から904名、国内学生が998名の合計1902名となりました。

入学式では、長田豊臣総長と坂本和一APU学長から挨拶がありました。また、平松守彦大分県知事および井上信幸別府市長からの祝辞が紹介されました。在學生代表として、リトアニアからの国際学生のリサウスカス ヴィテスさんが英語で歓迎の挨拶を行い、新入生代表として、国内学生の緒方弘太郎さんが日本語と英語で、カンボジアからの国際学生のマオ パリンさんが英語で挨拶を行いました。



入学式には、新入生のほか、APUアカデミック・アドバイザーのウィスパー ルイス氏（前駐日インドネシア共和国大使）、新入生の父母、ホストファミリー、200名を超える在學生が参加しました。

立命館アジア太平洋大学 国・地域別の学生数 (2001年10月1日付)

■アジア

国・地域	1回生および 2回生の総学生数	2001年10月 入学者数	合計 (人)
韓国	185	10	195
中国	119	38	157
台湾	37	42	79
ベトナム	52	20	72
インドネシア	32	24	56
タイ	25	5	30
インド	23	8	31
スリランカ	18	13	31
マレーシア	15	5	20
バングラデシュ	7	7	14
ラオス	8	3	11
ミャンマー	9	2	11
ネパール	7	4	11
フィリピン	8	3	11
パキスタン	5	5	10
シンガポール	8	1	9
モンゴル	3	4	7
カンボディア	1	3	4
イラン	1	1	2
ヨルダン	1	1	2
グルジア		1	1
シリア	1		1
トルコ		1	1
ウズベキスタン		1	1
小計/Sub Total	565	202	767

■アフリカ

国・地域	1回生および 2回生の総学生数	2001年10月 入学者数	合計 (人)	
ガーナ		5	4	9
ケニア		6	3	9
ナイジェリア		4	4	8
エチオピア		3	1	4
ウガンダ		1	3	4
ジンバブエ		2	1	3
ジブチ		1	1	2
マラウイ			2	2
マリ		2		2
スーダン			2	2
カメルーン		1		1
コモロ			1	1
マダガスカル		1		1
モロッコ			1	1
ザンビア		1		1
小計		27	23	50

■アメリカ

国・地域	1回生および 2回生の総学生数	2001年10月 入学者数	合計 (人)
アメリカ合衆国	10	6	16
カナダ	4	4	8
エクアドル	1	1	2
ポリビア		1	1
キューバ		1	1
小計	15	13	28

■オセアニア

国・地域	1回生および 2回生の総学生数	2001年10月 入学者数	合計 (人)
オーストラリア	6		6
ニュージーランド	2		2
パプアニューギニア	2		2
サモア	2		2
パラオ		1	1
トンガ	1		1
小計	13	1	14

■ヨーロッパ

国・地域	1回生および 2回生の総学生数	2001年10月 入学者数	合計 (人)
リトアニア	6	1	7
ブルガリア	5	1	6
ハンガリー	2	4	6
イギリス	7		7
ロシア連邦	4		4
フィンランド	2	1	3
エストニア	1	1	2
ポーランド	2		2
ルーマニア	1	2	3
クロアチア	1		1
チェコ		1	1
ドイツ		1	1
イタリア		1	1
スロバキア		1	1
小計	31	14	45

■合計

国際学生 (留學生) 合計	651	253	904
国内学生	984	14	998
APU学生総計	1635	267	1902

注 国際学生とは、在留資格が「留学」である学生をいう。
国内学生には、在留資格が「留学」ではない在日外国人を含む。

モーリス ストロング博士をお迎えして国際学術シンポジウムが開催されました

11月25日、26日、APUに国連事務次長で平和大学（国連決議によりコスタリカに設立された大学）学長のモーリス ストロング博士をお招きし、「アジア太平洋の都市と環境」をテーマとする国際学術シンポジウムが開催されました。今回のシンポジウムには、坂本学長と鈴木糸子 アジア太平洋学部長が国連本部を訪問し、来学をお願いした結果実現したものです。



25日にはステューデント・ホールにおいてアジア太平洋地域から招へいた研究者や都市の環境問題担当者らによるセッション「アジア太平洋の環境創造と持続可能な開発」が行われました。26日にはAPUと平和大学の協定締結合意を記念し、ストロング博士が「地球環境セキュリティの展望」と題して講演されました。その中で博士は「地球環境を保護するためには世界各国が協力し合って具体的な政策を打ち立てていかなければならない」と述べられました。また、講演前に開かれた記者会見では、地球温暖化防止のための京都議定書について質問を受け、「早期に発効させることが重要です。日本には率先して引っ張ってほしい」などと回答されました。

APUと平和大学は、来春、協力協定を締結する予定です。



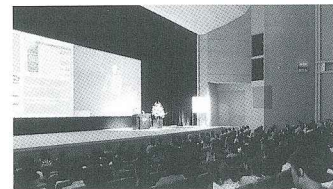
第5回トップ講演会が開催されました

第5回を迎えた『トップ講演会』が、10月10日にミレニアムホールで行われました。当日は650名を越える聴講者で会場は埋め尽くされました。

今回の講演会では、日本ヒューレット・パッカード株式会社の代表取締役社長寺澤正雄氏を迎え、「インターネットの将来と皆さんへの期待」をテーマにお話しいただきました。寺澤氏は、ヒューレット・パッカード社の最高責任者カーリー・フィオリナ氏の「デジタル・ルネッサンス」という言葉をキーワードに、21世紀を迎えたインターネットの未来像とヒューレット・パッカードの戦略についてパワーポイン

トやDVD映像を活用してわかりやすく解説されました。

また、ヒューレット・パッカード社誕生の場所「ガレージ（米、シリコンバレーの名所）」のルールを紹介され、これが今でも社の基本的精神“HP way”になっていると説明されました。そして、将来を担う若者たちへのメッセージを送ってくださいました。講演終了後、学生からは時勢を鋭く捉えた質問が出され、時間いっぱいまで活発な質疑応答がなされました。



オープンキャンパス・APUデーが開催されました

11月10日、オープンキャンパス・APUデーが開催され、約6000名の受験生・高校生、市民の方々がAPUキャンパスを訪れました。

APUデーでは、学生によるサークル発表やパフォーマンス、ゲーム、模擬店、茶会のほか、写真展、APUグッズ販売、自治体・商工会の協力による物産展、市民によるフリーマーケットなどが行われました。同時に父母懇談会も開催され、学生の学習・生活相談および進路・就職相談に多くの父母の方々が参加されました。

オープンキャンパス

では、入試アドバイザー・在学生による個別相談や模擬講義、

入試説明・英語対策講座、受験生の父母対象説明会、キャンパスツアーなどが行われ、全国からAPUに入学を希望する受験生・高校生が参加しました。





立命館アジア太平洋大学

〒874-8577 大分県別府市十字原1-1
TEL.0977-78-1114
<http://www.apu.ac.jp/>